

## 過疎地域自立促進計画(素案)に関する意見・質問書等に対する対応について

提出者等	掲載ページ	意見・質問等	過疎計画への掲載の考え方
------	-------	--------	--------------

### 前回の審議会での質問事項に対する積残分

安永委員		里山エリア再生交付金事業の採択要件が0.10haが0.50haに上がっており補助がなくなったが、補助していただけないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度までの里山エリア交付金事業が国の事業見直しで廃止となった。この結果、国の補助事業が里山再生交付金事業から流域育成林整備事業へと変わり、この補助採択の要件(事業規模0.10ha 0.50ha)が変更された(農林課)。</li> <li>・現在、市単独事業での対応は考えられていないため、今回の過疎計画の事業計画への計上は難しい。</li> </ul>
安永委員		安心安全な生活のためクマ被害への対策をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在市では、クマ対策本部を設置し、対応している。</li> <li>警察と連携したパトロールの強化。猟友会から選抜された熊レンジャーにワナ(市保有2基、県保有2基)の設置。(農林課)</li> <li>大潮、渋川地区の小中学生に「熊よけ鈴」を配布している(教育委員会)</li> <li>・ツキノワグマが人里に侵入する原因の一つとして、繁殖や冬眠に必要なクリ・ナラ類、ブナ類の堅果類を失くす樹木が不足していることが考えられることから、他の野生鳥獣を含め、生物多様性が確保できる植生の保全・整備が必要と考えている(農林課)</li> </ul>

### 意見・質問書提出分

岩田委員	P9	中山間地域の鹿野がどの様に取り組みば“いのち育む里”になるのか実現に向けて地域づくりが重要な事だと思えます。きめ細やかな支援をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市、地域住民・地域団体、都市住民、企業、高等教育機関等が役割を認識し、協力、連携した地域づくりを推進していくこととしており、“いのち育む里づくり”課として、できる限りの支援をしていきたい。</li> </ul>
岩田委員	P13～25	安心して暮らす地域として <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者福祉</li> <li>・児童福祉</li> <li>・障害者福祉</li> </ul> の整備促進を盛り込めないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。具体的に施設整備の方針が決まり、総合計画の実施計画事業とされた場合は、必要に応じて過疎計画を変更し、盛り込むこととしたい。</li> </ul>
岩田委員	P14	産業 農業、林業 ……内容がよく分からないのでできましたら学習会をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会については、実施することで検討したい。具体的には鹿野総合支所地域政策課と協議されたい。</li> </ul>
岩田委員		公民館の転用につきましては、地域全体で意見を聞いてからにすべきだったのではと感じました。このような話がある時は、重要なことですので審議会の中で是非取り扱っていただきますようお願いいたします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の転用問題については、過疎地域自立促進計画とは別の場で、協議されたい。</li> </ul>
寺戸委員	P15(ウ) 生産・需要供給	いわゆる農商工連携と思うが具体的事業計画はあるのか。(まずは勉強会?)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過疎地域自立促進特別事業(ソフト分)と対象となる事業について、平成22年度12議会までに、周南市全域を対象とする事業として組立てが難しいため、今回は提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。今後、具体的な事業内容を決定し、必要に応じて過疎計画を変更し、盛り込むこととしたい。</li> </ul>
寺戸委員	P16(イ) 地域資源…	鹿野地区に秘められた特産品に「鹿野茶」があるが、これの生産拡大はできないものか。(かの高原開発の事業のみならず、広く…)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鹿野茶」の生産拡大については、農林課や生産者など問題があることから、方法等を含め検討していく必要がある。いずれにしても、地元や生産者の意向が最も必要と考える。</li> </ul>

提出者等	掲載ページ	意見・質問等	過疎計画への掲載の考え方
寺戸委員	P17才 観光・レク	各種ツーリズムの市民への宣伝、啓蒙(例えば地域住民の地域地旅等)また、例えば農家、林家民宿開設の援助等はできないものか。	・過疎地域自立促進特別事業(ソフト分)と対象となる事業について、平成22年度12議会までに、周南市全域を対象とする事業として組立てが難しいため、今回は提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。今後、具体的な事業内容を決定し、必要に応じて過疎計画を変更し、盛り込むこととしたい。
寺戸委員	P18 天神山整備	天神山登山口の旧教員住宅を撤去し、屋外ステージ、公園、駐車場を整備する。(合併記念公園の一部は?)	・公園の整備については、既存の公園整備(周南緑地公園、永源山公園、高水公園)を優先することとしており、現状では合併記念公園は予定していない(企画課) ・現在、提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。具体的に施設整備の方針が決まり、総合計画の実施計画事業とされた場合は、必要に応じて過疎計画を変更し、盛り込むこととしたい。
寺戸委員	P28 医療の確保	鹿野診療所を廃止し、その経費を現民間病院へ補助し、診療科目(眼科・皮膚科等)を開設する。	・今後、通院が困難な患者が増えていくことが見込まれる中、鹿野診療所は公的医療機関として訪問診療等の充実を図るなど安心して医療サービスが受けられる地域医療体制の維持、確保に努めていかなければならないと考えている(地域医療政策課) ・現在、提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。
長弘委員	P18	豊鹿里パーク、ケビンの増設について季節的にも限られた利用になると思いますが、新設の必要がある程現施設の稼働率は高いのでしょうか。	・現在ケビンは4棟あるが、夏休みの時期などでは、施設の空きがないことから、予約を断っている状況である。また、総務省と文部科学省、農林水産省が進める「子ども農村漁村交流プロジェクト」などから、体験型教育旅行の需要が高まっており、ケビン2棟を整備することにより、小規模の小学校への対応などが可能になると考えている。 ・現在、提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。
長弘委員	P13	豊かな心、確かな学力、生きる力に強健な身体の育成を加えるべきです。 上記に関連して、今年の夏期休暇中のプール利用者(子供達)が激減していたようですが、水泳は子供の体力アップに役立つ筈、様々な理由はあるにせよ折角の施設を効率的に、また積極性をもって子供達の為に役立てるべきだと考えます。	・貴重な意見として承り、教育委員会には、こうした意見があることを申し伝えたい。
長弘委員	P28	診療所の民間病院との連携等がうたわれています。過日の審議会でも意見がありました眼科及び耳鼻科の設置を切望します。(週に何回かでもよい)	・専門的な医療機器等の整備を行わなければならないことから、現在の財政状況では難しいと思われま。専門医の確保も非常に困難であり、現在、高次医療機関への紹介の有無等を見極めながら、現医師が診察に当たっています(地域医療政策課) ・現在、提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。具体的な方針が決まり、総合計画の実施計画事業とされた場合は、必要に応じて過疎計画を変更し、盛り込むこととしたい。
長弘委員		公共下水道事業の受益者分担金について周南市一律でないことに少し不満があります。今後もこのまま継続なのでしょうか?	・公共下水道事業の受益者分担金については、過疎地域自立促進計画とは別の場で、協議されたい。

提出者等	掲載ページ	意見・質問等	過疎計画への掲載の考え方
長弘委員	要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動実績のあるところに予算配分がされるとのことですが、それがハード面である場合、後継者等将来性を熟慮する必要があると思います。</li> <li>・店舗のない地域への食料品等の販売車の運行はできないか。</li> <li>・自立促進計画(素案)を出されてから意見、質問書提出までの期間がもう少し欲しいと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備については、今回の過疎計画に計上した事業であっても、実施の際は必要性等、再度検証するべきと考えている。</li> <li>・配達サービス等生鮮食料品など日常生活の買い物を支援するサービスの需要は高まっていると認識しているが、地域の人々の意見や民間の状況等、今後の検討課題と考えている。</li> <li>・時間的な余裕がないことについてはお詫びする。計画決定まで、協議時間がもてるよう努力するので、ご理解いただきたい。</li> </ul>
有國委員	P27計画	障害者の授産施設の整備について、計画に計上されていないがいかがか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が職員を配置して授産施設を運営することは困難である。ただし、民間事業者の希望があれば、障害者の作業施設として、既存の空き施設を改修(バリアフリー対応、トイレ改修等)するなどして貸し付けることは可能と考える(障害福祉課)</li> <li>・現在、提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。具体的に施設整備の方針が決まり、総合計画の実施計画事業とされた場合は、必要に応じて過疎計画を変更し、盛り込むこととしたい。</li> </ul>
有國委員	P28	診療所機器の耳鼻科・眼科等専門機器の整備について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な医療機器等の整備を行わなければならないことから、現在の財政状況では難しいと見られます。専門医の確保も非常に困難であり、現在、高次医療機関への紹介の有無等を見極めながら、現医師が診察に当たっています(地域医療政策課)</li> <li>・現在、提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。具体的な方針が決まり、総合計画の実施計画事業とされた場合は、必要に応じて過疎計画を変更し、盛り込むこととしたい。</li> </ul>
有國委員	P1市の概況	隣接県を含め、県全体の中の周南市の位置、また、周南市に於ける鹿野の位置を地図(主要道路など含む)で示してもいいのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・位置図を記載した。</li> </ul>
有國委員	P1歴史的条件	合併して7年、周南市、また鹿野の歴史的姿がうつるような内容にしていく必要があると思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明を追加した。</li> </ul>
有國委員	P2過疎の状況	過疎地域に指定されたのが何年か記述が必要と思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明を追加した。</li> </ul>
有國委員	P13医療の確保	医療では、鹿野診療所と地域の民間病院との機能分化と連携、また「専門病院との医療連携」を深め、疾病の予防から、診断、治療、リハビリテーション、「緩和ケア、ターミナルケア」までの一貫した総合サービスの供給体制づくりを推進します。「」内を加えていただきたい。基本が大事、抑えておかないといけない点と考えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「緩和ケア、ターミナルケア」は徳山医師会訪問看護ステーションの方針であり、市の方針としての位置づけは難しい。</li> <li>・「医療の確保」の訪問看護ステーションの記述を訂正している。</li> </ul>
有國委員	P27計画 中2児童福祉	保育所整備事業とありますが、保育整備事業に言葉を改める必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保一体化の施設整備を想定した保育所の建物の整備であることから、現在の表記で対応したい。</li> </ul>

提出者等	掲載ページ	意見・質問等	過疎計画への掲載の考え方
有國委員		パブリックコメントの期間はどのくらいあるのか。	・総合計画後期基本計画が上位計画であり、この内容と過疎計画は整合している。昨年度の総合計画策定時には全市的にパブリックコメントを実施していることから、現段階での実施は考えていない。また、周南市市民参画条例においても、この地域審議会との協議で問題ないと考えている。
藤永委員	P18	長野山緑地公園への整備事業がないのか。観光でもレクリエーションでも鹿野町時代から活用したが、今後も整備し産業の振興へと役立てる財産なので計画に入れるべきと思う。	・現在減少傾向にある利用者を考えると新たな整備は難しいことから、総合計画の実施計画への計上が見送られている。 ・現在、提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。具体的に施設整備の方針が決まり、総合計画の実施計画事業とされた場合は、必要に応じて過疎計画を変更し、盛り込むこととしたい。
藤永委員	P32	過疎が進み集落維持が困難ですが、UJIターンの促進の方法を何かお考えか。移住者の勧誘、受入体制の具体的な方法はどのようなことなのか。また、集落支援員、地域おこし協力隊とはどのようなものか。	・UJIターンの受け入れや相談対応等を行う仕組づくりを検討していきたい(応援団組織の設立)と考えている。 ・過疎地域自立促進特別事業(ソフト分)と対象となる事業について、平成22年度12議会までに、周南市全域を対象とする事業として組立てが難しいため、今回は提示している過疎地域自立促進計画(案)の内容で対応したい。今後、具体的な事業内容を決定し、必要に応じて過疎計画を変更し、盛り込むこととしたい。 ・集落支援員は、市職員と連携し、集落の巡回や状況把握等を行う人材で、地域おこし協力隊は、農林水産業への従事等や水源保全・監視活動、環境保全活動、住民の生活支援、地域おこしの支援を行なう人材で、この協力隊の活動には、都市との交流事業や特産品の販売その他の地産地消の推進のための取組みの応援等を含みます。
片山委員	P9	・鹿野地域の自立促進のための基本方針 鹿野地域を「周南市まちづくり総合計画後期基本方針」の重点推進プロジェクトの一つに「いのち育む里づくり」に取り組むこととしてもらったことについては、大変地域住民の一人としてありがたいことと感謝しています。 5つの重点事項が掲げられていますが、どのようにしてこの重点事項を展開していくか大きな課題がある。それは鹿野地域全体で、民間人が中心になってまちづくりを考え実践していく団体の存在がなく、最後のポイントにある役割分担について述べてあるような、地域全体がみえ、それをまとめリードしていけるか不安を感じる。	・今後地域づくり組織、地域づくりを支援する人材の配置も検討している。 ・集落支援員は、市職員と連携し、集落の巡回や状況把握等を行う人材で、地域おこし協力隊は、農林水産業への従事等や水源保全・監視活動、環境保全活動、住民の生活支援、地域おこしの支援を行なう人材で、この協力隊の活動には、都市との交流事業や特産品の販売その他の地産地消の推進のための取組みの応援等を含みます。
片山委員	P12	・鹿野地域で重点的に取り組む事項別の基本方針 まちづくりをリードしてくれる人材の出現はすぐに求められないので、各基本となる重点取組み事項の推進の際に、いかにして適切に住民の意見を聞き、事業遂行に取り入れていくかが課題である。	・貴重な意見として受け止めている。地域の中核であり、最も身近な、鹿野総合支所を中心に対応すべきと考えている。